

# 課題別研修 「農業政策(B)」



対象国：カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン  
受入人数：7名  
受入期間：2020年1月14日～2020年1月29日

世界には農業が主要産業である国が多数ありますが、中には食の安全保障や経済発展、成長率等において様々な問題を抱えている場合があります。

本研修は、中央・主要地方政府において、農業政策の立案や国際協力業務に携わる行政官を中心に7名を受け入れ、日本の農業政策の歴史や現状について理解を深めながら自国の農業分野における課題を明確にし、政策に活かしてもらうことを目的として実施しました。

研修員にとって、日本の農家さんの生産に対する意識の高さや、地域密着型の技術普及・営農指導体制が敷かれていることは、特に大きな学びであったようです。最終日には「現状に則した形で日本式の農業を取り入れることで、自国の発展に貢献していきたい」と、既存の政策への提言が発表されました。



序盤に農林水産省を訪れ、日本の農業の概要や政策について理解を深めました。



小規模酪農家の効率的な営農事例として、市内の中村牧場さんを訪れました。



地域ぐるみの地産地消の取組みを学びに(株)山本忠信商店さんの製粉工場を訪れました。



HACCPを例に衛生管理の重要性や付加価値化の利点について学びました。